

映画が到達したスリルとサスペンスの極限／この着想／この面白さ／

シネマスコープ／カラー作品

# ミクロの 決死圏

SF映画史上不滅の最高傑作ここに甦える！

2度と見られない抜群の特撮技術で描く  
驚異のミクロ決死圏！

fantastic voyage

ラウエル・ウェルチ ■ ステューブ・ボイド ■ アーサー・ケネディ ■ アーサー・オコンネル  
エドモンド・オブライエン ■ ドナルド・ブリーゼンズ  
製作ソール・デビッド ■ 監督リチャード・D・フライシャー ■ 脚色ハリー・クライナー ■ 音楽レナード・ローゼンマン  
FOX映画/松竹・富士映画共同配給



# fantastic voyage

## ★スタッフ★

製作.....ソール・デビッド  
監督.....リチャード・D・フライシャー  
脚色.....ハリー・クライナー  
原作.....オットー・クレメント  
          ジェイ・ルイス・ビックスピー  
音楽.....レナード・ローゼンマン  
撮影監督.....アーネスト・ラズロ

## ★キャスト★

グラント.....スティーン・ボイド  
コーラ・ピーターソン.....ラクエル・ウェルチ  
カーター大尉.....エドモンド・オブライエン  
医師デュバル.....アーサー・ケネディ  
医師マイケルズ.....ドナルド・ブリーゼンズ  
ドナルド・リード大佐.....  
          アーサー・オコンネル  
ビル・オウエンス大尉.....  
          ウィリアム・レッドフィールド

＜カラー作品＞

上映時間 1 時間 40 分

松竹・富士映画共同配給

## ミクロの決死圏

SF 映画史上、最高の傑作！

最近でも「猿の惑星」「2001年宇宙の旅」「宇宙からの脱出」「アンドロメダ」と、数多くの素晴らしい空想科学（SF）映画が公開されてきた。

奇抜なアイデア、特撮効果の見事さ、異常な緊張感、そして科学的な根拠、裏付け、あらゆる人材を駆使し、製作費35億円という巨費を投じて完成されたのが、この「ミクロの決死圏」である。まさにSF映画史上最高の話題作である。

スリルとサスペンスにみちた特殊効果の見事さは、近年類を見ない。この素晴らしいアイデアは、脚本のハリー・クライナーが書き、世界的なSF小説の大家であるアイザック・アシモフまでが、リライとして小説化したと言われている拔群の着想である。撮影に「大空港」「ザッツ・エンタテインメント」のアーネスト・ラズロがあたり、人間の体内を美しい色彩で映像化し、息をもつかせぬ演出は、「トラ・トラ・トラ」「ソイレント・グリーン」のリチャード・D・フライシャー、と超一流スタッフによって、娯楽超大作が出来上った。

3600秒ノサスペンスが始まった――

特別仕立ての飛行機を迎える、アメリカ特別情報部は、空港内にもものしい警戒体制をしきつめた。チーフであるグラント（スティーン・ボイド）は、チェコから亡命して来る科学者の到着を待ち受けている。彼の顔には厳しさの中に一抹の不安を見せている。不安が的中した。敵側情報部の突然の襲撃によって、博士は重傷を負う。症状が判明した。クモ膜下腔出血、外科手術は全く不可能なのだ。博士の命を救う道はない。遂に驚くべき手術が実行された。人間をミクロ化すること、博士の体内に潜入、腫瘍患部をレーザー銃で治療するという破天荒の実験だ。制限時間はわずか60分しかない、すべてをその時間内で解決させなくてはならない。アメリカの

C M D F（総合ミニチュア統制軍）総指令官カーター大尉（エドモンド・オブライエン）は、5人の隊員を選んだ。潜行艇「プロテウス」号に乗り込む隊員たちは、情報部チーフ、グラントを筆頭に、C M D F の脳外科医デュバル（アーサー・ケネディ）、その助手で美人のコーラ（ラクエル・ウェルチ）、潜行艇の先導役であり循環器の専門医マイケルズ（ドナルド・ブリーゼンズ）、そして海軍所属のオウエンス大尉（ウィリアム・レッドフィールド）が潜行艇を運転する。わずか3600秒だ。だが隊員の中に一人、敵側のスパイがいるという情報が入った、犯人は？ 体内で予期せぬ出来事が、次々と5人の隊員たちにふりかかってゆく。サスペンスが起った。

圧倒する完璧な特撮シーン！

この映画ほど、特撮シーンの凄さを見せつける映画はない。潜行艇ごと5人の人間をそのままミクロ化するという物語のもとで、人体内の各器官が事実に基づき作られた。毛細管、心臓、肺臓、耳（中耳と内耳）、脳髄、肺動脈、リンパ結節、各種の血液系統の部分などが拡大再現された。体内撮影は毛細管から開始したが、ファイバー・グラスで作られ長さ30メートル50センチ、幅15メートル25センチ、血管は長さ12メートル、幅6メートル71センチと、どれ一つとっても巨大な器官が、次々に撮影されていった。心臓は4メートル、内耳は9メートル、巾21メートル、脳内部は30メートル×61メートルで制作されたという次第である。特撮規模の大きさもさることながら、あらゆる科学者、人材を使っすべて実物以上にそっくりと作られ、製作費35億円の大半が費やされたという。一流スタッフによって作られたこれらのシーンに、美術・装置・色彩賞、特別視覚効果賞の二つのアカデミー賞が贈られた。

12月4日(土)より驚異のロードショー

地下鉄東銀座駅前  
東銀座 松竹セントラル (541)  
2714